

第2回調査記録 2019年1月17日

1. 朝比奈峠入口 3基

A 既存資料データ

(1) 左端 舟型 安山岩

中央 来迎相あみだ如来・月日・蓮台 下辺 三猿(みきい)

左肩わき 右脇 奉造立庚申供養 施主/十二所村/二十一人/[敬]白

右わき 左脇 干時延宝四辰十一月吉日

$55 \times (80 + \text{猿 } 20)$ 60×125

(2) 中央右 角柱

正面 青面金剛

右面 弘化五申年二月吉祥日

台石正面 判別できず

$30 \times (68 + \text{台 } 26)$ 30×70

(3) 右中央 角柱

正面 青面金剛 文字塔 日月 壇に三猿(みいき)

台石正面 五大堂明王院 以下 26名連名

正面 五大明王院 山口政之輔 山口重兵衛 伊藤〇〇〇 金井新衛門 伊藤金蔵

伊藤幸吉 宮内太郎右衛門 森庄兵衛 大木 大木 森

左側面 白井喜〇〇 大木利右衛門 角田糸次郎 小長井勘左衛門 伊藤〇〇

白井〇〇 伊藤兵次郎

右側面 森平左衛門 金井常太郎 大木重右衛門 角田竹右衛門 伊藤〇〇 伊藤次郎

右面 萬延元年庚申十一月

$36 \times (60 + \text{猿 } 22) + \text{台 } 26$ 35×72

B 調査記録

切り残された高台の上にあるが、「木村」「堀」はよじ登ったのか近くで観察しているが、今回高台へよじ登るのは、はばかられたので、遠望での確認しかできなかった。「WEB」でも遠望に留めている。中央と右の角柱は「木村」と「堀」とで記載が逆になっている。現認では、いずれも正面が「青面金剛」であり、側面が見えない。しかし、日月が右の庚申塔の上部にあるのが確認できるので、「堀」が正しい。

(1) 左端舟型において、「木村」と「堀」では逆になっているが、現認したところ「堀」が正しい。左脇に○時四△年十一月吉日は読める。○は「堀」によれば干と読んでいるが、二の下に縦線までは確認できた。△ははっきり確認できなかったが、「木村」「堀」ともに辰と読んでいるので、多分そうであろう。右脇は光線の関係で確認できなかった。庚申塔のサイズは「木村」と「堀」で差があるが、測定できず。

- (2) の角柱に関しては、「木村」と「堀」とで右面の造立日に「申」の有無(「堀」あり)である。現認はできなかった。
- (3) の角柱のサイズは誤差の範囲で「木村」「堀」の両者は一致している。違いは、右角柱・右面の「庚申」の文字の有無(「堀」あり)である。現認はできなかった。また、造立者の氏名も近づくことができないため読むことができない。



庚申塔 3 基 全体 日月があるのは右側の塔(「堀」の記述どおり)



庚申塔左

「堀」の記述どおりの文字が読める

2. 鑪ヶ谷(調査付記)

滑川沿いをバス停方向に戻る。左側に鉄の橋がかかっておりその先は鑪ヶ谷になっているというので、石塔の調査には関係ないが行ってみる。そこはかなり広い谷戸でかつては畑だったという。周囲の山裾にはヤグラもあるので中世にはお寺が建っていたのかもしれない。

数年前は草木に覆われていたというが今は綺麗に刈り取られ、夫婦らしい人が作業をしていたのでお話を聞いてみると、この土地を買取り畑にしようとしているとのこと。谷の奥には道があり、神武寺の方に行くと思うが途中までしか行けなかったとの事。



3. 延命寺跡 1基

A 既存資料データ

舟型

中央上辺 種子「カ」

正面 延命地藏尊立像

右脇 奉造立庚申供養

左脇 正徳二壬辰二月 日

壇正面 村民7名 末尾に明王院住職「竜山」

大木市左衛門 大木作左衛門 大木四左衛門 大木六郎兵衛 伊藤久左衛門

角田善四郎 森平兵衛 竜山

47×(立像 62+台 19+台 20) 40×80

B 調査記録

「木村」と「堀」では記載内容がほぼ一致し、現認もできた。「木村」にのみ記載がある種子「カ」も確認できた。高さは「木村」と「堀」でほぼ一致するが幅に差あり



種子「カ」らしき刻印

4. 五大明王院参道 1基

A 既存資料データ

道標

正面 當寺本尊五大明王運慶作 飯盛山寛喜明王院五大堂 上辺 きかざる 三猿

右面 飯盛山寛喜明王院五大堂 當寺本尊五大明王運慶作

左面 源頼朝卿四代将軍源頼経卿御建立地

裏面 庚申供養 寛保元酉天 下 造立7名

四月吉日

大木伊右衛門 同金右衛門 伊藤長右衛門 同○次郎 角田権右衛門

宮内源右衛門 法印清印

24×19×(寝猿 13+高 74) 20×75

B 調査記録

「木村」と「堀」とで正面の解釈が異なるが、裏面が庚申供養であることは両者とも同じで

あるから、裏面の裏が表とすると「堀」が正しい。上辺は、「木村」が三猿、「堀」がきかざるとなっており、現認ではきかざるのであった。元三猿が摩耗で一つの猿だけ残ったという感じでもないで、「木村」の記載誤りであろう。罷免の源頼朝～建立地の左面にあるとの記載は「木村」にはないが、現認できるので「木村」の記載洩れであろう。サイズは「木村」「堀」ではほぼ一致する。現認では「堀」の記載をベースとすると正面は辛うじて読める程度で左右の面の文字は良く読めなかった。裏面の文字は良く読める。



5. 梶原谷戸(調査付記)

明王院跡の庚申塔調査の後、梶原谷を訪れた。特に「谷戸の記録」の記述と変わったところはなかった。最奥部に梶原井戸と称するものがある

6. いなり道 2基

A. 既存資料データ

右 唐破風付卒塔婆

正面 青面金剛像 合掌六手 三眼 邪鬼2匹 円光背 三猿(いみき)

右面 寶曆二年壬申歳 施主 浄妙寺村

左面 二月廿八日 講中立之

笠(43×高23)+31]×28×(56+猿10+台16) 75×35

中央 唐破風付卒塔婆

正面 種子「キリーク」 阿弥陀如来像・禅定印・円光背
 台座の上に いわざる きかざる
 右面 貞享二年 二月六吉日 浄妙寺村 みざる
 左面 奉造立石塔庚申村中供養二世安楽 きかざる
笠(80×高 30)+31×(如来 50+猿 16+台 16) 73×32

調査記録

中央唐破風付卒塔婆について、正面上辺にキリークらしきものは確認できる。「堀」に円光背と記載されているが、写真で確認すると、あると書かれていなければ気がつかないが、円光背があるようにも見えるがはっきりしない。台座の上に猿とあるが台石ではなく、台座も含めて彫刻されているという意味である。彫られているのはあきらかに「きかざる」で「木村」が正しい。「木村」には左右の猿について言及はないが「堀」に記載されているとおり猿はある。左右の猿がなにかいまひとつはっきりしないが、左面は「みざる」にはみえないので、おそらく「いわざる」であろう。右面は消去法で言えば「みざる」であるが、横向きで片手をつき片手で耳をふさいでいるようにも見える。



中央唐破風卒塔婆正面 種子「キリーク」と円光背？



中央唐破風卒塔婆正面の猿



中央唐破風卒塔婆左面の猿



中央唐破風卒塔婆右面の猿

7. 関取場跡 1 基

角柱

A 既存データ

正面 青面金剛

左右面 かくおんじ

左 やくし くら地蔵

大山ことぶき?~不動

右左面 慶応二丙寅十一月

台石正面 発願主 坂之下村 村田久四郎 ほか

台石左右面 俣野村 鶴沼村 藤沢宿の 6 姓名

台石右側 俣野村 石川重兵衛 鶴沼村 斎藤六左衛門 藤沢宿 三留与惣右衛門

台石左側 藤沢宿 三河屋久右衛門 藤沢宿 今井治兵衛 藤沢宿 若松春太郎

$26 \times (68 + \text{台 } 22 + \text{台 } 13)$ 30×65

B 調査結果

角柱の左右の面が「木村」と「堀」とで逆に記載されているが、現認すると「堀」が正しい。台石正面 「堀」では 発願主 坂之下村 村田久四郎 ほかとなっているが、現認すると、もう一人は 山之内村 糺屋傳兵衛と読める。「堀」では、台石左右面に俣野村 鶴沼村 藤沢宿の 6 姓名となっているが、現認すると右面は、俣野村 石川重兵衛 鶴沼村 升為?六左エ門 藤沢 三? 奈哲?右門と読めるが、左面は読めない。ずらりと列記してあるようにも感じる。

